

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名	チャイルドサポートうら (児童発達支援)		公表日		令和8年 4月 1日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9		その日の利用する子の希望で部屋を変更したり、適宜対応している。	体調不良の子が一つの部屋を使ってしまったら部屋が足りなくなってしまうので、その時には駐車場の環境も使用しながら対応が必要
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9		児童に合わせ個別対応もできている。	スタッフ人数は足りている状態だが、送迎に関して運転が難しいスタッフがいるのでその時の要因が足りなくなってしまう
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	2	バリアフリーではないが民家と同じ作りで実際の環境と近い環境での支援ができています。	目からの刺激になるものがあればいいと思うので工夫が必要。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	2	毎日掃除をして環境設備をしている。	子どもたちが片づけられるような絵を張りながら工夫はしているが、はがされる事で手直しまでいくのに時間がかかるので速攻促進で行動ができるようにしていく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	1	部屋数は沢山はないが時と場合によって設けている。	帰って来る時間がバラバラなのでその時に部屋を使い分けながら活動を行ったりしている。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9		ミーティングなどで情報共有や対策を行っている。	振り返りの時間に追われたりしているのでミーティングの内容を変えながらスムーズにスタッフ全員が参画できるような場になるようにしていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		評価表で次年度の取り組みであったり、発信のあり方を色々試している。	直ぐに対応できるようにその都度、確認や共有は必要なので面談の機会を設けるようにしていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	1	定期的に面談をしながら改善に繋げている。	共有はするが継続までは出来ていないので定着できるような方法が必要。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	4	外部講師が来て評価はもらっている。その時には行っている。	その日にいたスタッフは把握は出来るが休んでいたスタッフへの周知までは確実ではないので対応したスタッフが最後まで責任を持って伝えていくようにする。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		研修の参加や月1回他事業所と勉強会を設けている。	その日の出勤スタッフは参加はできるが当日休みスタッフにまでの配慮が必要。(別日や録画を設けるなど)
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9		毎月発行して保護者には配布している。	プログラムの作成はできているが内容までの周知や工夫など、少しの配慮が必要なのでブログなどで沢山アップできるようにしていく。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8	1	ミーティングなどで児の課題について話し合いをして共有して、計画表にも反映されている。	今後も継続をしスタッフの入れ替わりをしながら会議にも参加してもらいニーズにあわせられるように計画を立てていく。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9		保護者と会議をする前にはスタッフ間で課題やできたことこの話をして会議後には共有をして毎日の日々の支援に行っている。	日々、関りが変わってくるので毎日継続をしながら話をしてスタッフも利用児も困らずに支援がきるようにしていく。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		計画にあった支援を行うように努力はできているが日々の違うので戸惑う事がある。	成長と共に関わるが違って来たり、体調と共に違って来たりするので目標を掲げながら楽しく計画に沿れるようにしている。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	1	多職種がいる中でインフォーマルなアセスメント中心に誰もが分かりやすい形で確認されている。	毎日の活動の中であったり、ミーティングを活用しながら確認をしているが全スタッフではないので全員が同じ認識になるように改善をしていく。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9		確認をしながら設定をしている。	地域支援・地域連携のねらいが提供できていない事もあるので再度確認をしながら関係機関とも相談をしながら内容を設定していくようにしていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	2	毎月担当にして作っている。	今後はチームで話し合っていく。チェックをしながら児童に合っているかの話し合いをする必要がある。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		日々、様々な活動を考える事ができている。各担当が順番に回ってきている為、偏る事はない。	固定化しないように工夫しながら毎日の活動を全スタッフでローテーションしながら作成しているので今後も継続していく。

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9		子どものできる事に目を向けて活動を検討できている。	児童の特性に分けてグループ分けをして行っているため継続しながら変化を見つけていくようにしていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	1	昼礼のミーティングでは話し合いをして活動に取り組んでいる。放課後ディは人数が多いので確認はできている。	児童発達に関して一人のスタッフで行う事が多いので共有までできていないのでお互いの確認ができるような配慮をしていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	3	週1回のみミーティングで一週間を話しているので工夫や改善までにはできていない。	夕方の送迎で時間が短いので翌日でもすぐに確認や共有、工夫や改善ができるように調整していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7	2	日々の記録はその日に記入をしている。	全体を見ての検証までは出来ていないのでお互いに確認をしながら支援の内容の改善にして次に繋げられるようにしていく。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		定期的に見直しをしている。	個々のモニタが近づく前にはスタッフ間で話をし、見直しを行えている。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		責任者や現場に入るスタッフも同席をしながら会議に参加している。	同じスタッフではなくてローテーションをしながら会議に参加して解決までいけるように調整をしていく。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8	1	学校や保育園などとの連携を行い、支援に繋げていくようにしている。	協力医療機関との連携などはできていないので少しずつ連携をしながら安心して支援ができるようにしていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9		学校などで会議を行ったりしながら情報の共有を行っている。	特定の利用児だけ関係機関での会議が多いのでできるだけ通っている児童の学校での共有をしていくようにしていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9		会議を設けながら情報の共有をしている。	子ども園や保育園からの移行の時には話し合いが出来ずに不安のまま就学をしているので、不安を抱えない様に何度も会議をしながら就学に取り組めるようにしていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		9	センターとの連携は出来ていない。どこで情報を取っていいかが分からない。近くにはセンターはないので中々行く事ができていない。	情報を探しながらセンターと連携ができるように動いていくようにする
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	9		地域の行事には参加するように心がけている。	近くに保育園があるので何度も声をかけながら連携を図っているが数回なのでイベントや交流を沢山組み込んでいくようにしていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		夕方の送りの時には今日の活動の内容や過ごした内容を伝えるようにしている。	面談を数回設けながらゆっくりとした時間で話せるように工夫をしていく。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9		研修案内やインスタ、ブログをアップしたりして情報の提供はしているが参加人数が少ない。	研修には毎年同じ内容だった事もあったのでいつもと違う研修を促しながら参加人数が多くなるように声掛けをしていく。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9		契約時には話をしている。	変更があったりした時などは伝えていない事があるので書類と共に一緒に確認をしながら伝えるようにしていく。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		会議をしながら保護者の想いや入れて欲しい内容を共有しながら確認をしている。	変化がない児童もいたりするので少しでも成長や可能性を引き出せるように工夫をしていく必要がある。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8	1	同意を得ている。	内容の変更が今の所ないので継続しながら続けていくようにする
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		夕方の送迎などでの相談はあったりするので都度スタッフ間でも共有をして同じ視点になるようにしている。	その都度、助言は行えているが短い時間なので面談を数回組んでいながら改善できるようにしていく。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6	3	保護者も交えての行事を組んでいるが参加率が少ないので保護者との交流までは結び付けていない。	保護者交流の内容を今後は工夫しながら参加率をアップできるようにしていく。月に一回の開催は行っているが人数が集まる事が少ないので改善をしながら対策を考えていくようにする。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9		対応は行っている。	その時にあったらその日での対応を心がけている。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	9		インスタやブログなどを活用しながら発信している。	LINEなども活用しながら保護者には情報を徹底的に周知している。室内にも見えるかしながら提示している。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9		キャビネットに入れて保管をしている。	鍵などはしていないので鍵も閉める様にしていく。
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		手紙やLINE、送迎での口頭で伝達は常に行っている。	情報だけの発信だけなので保護者の意見なども詳しく聞けるような環境が今後必要なので工夫をしながら安心して情報を伝えられるようにしていくようにする。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	4	数回だけが保育園との交流をして招待をしている。	地域での行事には1回だけしか参加はできていないので沢山の行事に参加できるように情報を取りにいくようにしていく。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9		研修を行いながらマニュアル作りを最新版にしている。訓練も実地できている。	感染のシミュレーションと共に訓練は実地出来ているが児童のシミュレーションまで詳しく、細かくできていないので保護者にも確認をしながら進めていけるようにしていく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9		月1回は行っている。	窓の開く場所が数カ所が決まっているのでルートなどの確認は毎回考えて動いていかないといけない。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	9		処方箋を受け取りながら確認を行っている。	保管場所に困ったりするので、定着できる安全な場所の確保をしながら保管ができるようにしていくようにする。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9		契約時に確認をしながらスタッフに共有している。	毎年確認をしながらアレルギーに変化がないかを保護者に確認をしている。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9		環境を整えていたりして、危険な場所はその都度、すぐに対応、修正を行っている。	利用児も成長したりしているのも今までになかった危険性が見えて来ているので再度確認をしながら修繕できるようにしていく。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9		送迎の時などで共有したり、報告をしたりしている。	家庭と同じ状況などもあったりするので同じ支援での取り組みになっているので隠さずに全部伝えるようにしている。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9		行っている。その日で共有をしたりしてすぐに対策は考えて二度と起こらないように心がけている。	一か月後にも再度、確認と共有をしながら同じ事を繰り返さないようにしている。
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9		年に2回の虐待研修を行っている。	怪しい行動が見られた時にはすぐに話し合いをしたり、勉強会をしながらスタッフ間の行動を振り返り、考えてもらうように行っているため継続が必要。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9		今の所、そのような場面は見られていないが怪しい時には保護者に相談をしたり一緒に支援の内容を考えている。	やむを得ない時には保護者も交えながら関係機関も交えながらいい方向性の支援と一緒に考えて児童が困らないような取り組みを行っていくようにする。	